



## 子ども議会

熱海市長 齊藤 栄

さる11月2日、熱海青年会議所の主催で「子ども議会」が開かれました。市役所にある市議会の議場を使い、24名の市内の小中学生が市政について質問をし、市長以下部長クラスが答弁するという本番さながらの仕立てで行いました。

小中学生の皆さんは大変緊張した面持ちでしたが、大きな声で市当局に対して堂々と質問する姿は大変凛々しいものでした。質問は「これからの熱海市の観光について」「通学路の安全確保について」「初島のためにゴミ箱を増やしたい」など多岐にわたり、グラフや写真を見せながら、皆さん、とても説得力のある質問をしていました。

特筆すべきは、桃山小学校の橋本みなみさんの「マリンスパに児童無料開放日を設けて欲しい」という提案が実現の運びになったことです。熱海は外で遊ぶ場所が少ないということから、この質問が出されたのに対して、市当局は「さっそく運営会社に話をしてみたいと思います」との答弁を行いました。これを受けてマリンスパ運営会社は、来年4月以降、中学生以下を対象に無料開放日を設けることを予定しています。

この実現により、子ども議会に参加した皆さんが「自分たちの提案が世の中を動かすんだ」と感じてもらえたら、本当に嬉しいことです。あわせて市議会がなぜ必要なのか、どんな仕組みを持っているのかについても、理解して欲しいと思います。今回の子ども議会を通して、熱海の子ども達に大きな可能性を感じました。



熱海市長 齊藤 栄

## ラジオで本音トーク

この10月からラジオ番組「齊藤栄熱海市長の本音トーク」(FM熱海湯河原)がリニューアルされました。

これまでは、パーソナリティの小川陽子さんとの一対一のやり取りを通して、市政について私が語るという内容でした。今後は、あるテーマについてゲストの方と対談を行ったり、私自身が熱海の街へ出て行って市民の皆さんの意見を伺ったりと、より多面的にライブ感を持って情報発信をしたいと考えています。

第1回目はゲストに熱海市観光協会会長の森田金清さんをお招きしました。森田さんは6月に歴代最年少で会長に就任したばかりの40歳。米国有数のコーネル大学ホテル学科のMBA卒業の俊才であり、広い視野を持ち、これからの新生熱海のリーダーにふさわしい方です。私と同じ世代ということもあり、大変話が弾みました。

これからはいわゆる着地型観光が大切。まずは来年の梅まつりの時期に併せて開催される「熱海で遊ぼう!」を官民の協力では非成功させましようということ得意気投合しました。現在、観光ガイド付きのまち歩き、「若だんなどはしご酒」、「熱海芸妓とお座敷遊び」など、熱海ならではの魅力を観光客に楽しんでもらう多彩なメニューを計画中です。

放送は毎月最終水曜の14時30分から(再放送は18時30分から)。楽しい番組になるよう頑張ります。乞うご期待!

## 就任2周年を迎えて

熱海市長 齊藤 栄



一昨年の9月14日に市長に就任して、早や二年が過ぎました。市長の任期は4年ですから、ちょうど折り返し地点を過ぎたこととなります。

この一年、特に力を入れた一つ目は「行財政改革」です。熱海市の危機的な財政状況の健全化を目指す「行財政改革プラン」を策定し、その着実な実施を図っています。また、「目標設定」「仕事の見える化」「人事評価システムの導入」など民間企業と同じ発想を取り入れた市役所の構造改革も積極的に進めています。職員の努力もあり、少しずつですが目に見える成果も上がっているようです。「最近、市の窓口の対応が良くなった」と複数の方から褒めていただきました。

二つ目は、新たな観光ビジョン「熱海市観光基本計画」の策定です。「心と体を癒す現代の湯治場」を目指し、既に5つの「まち歩きプロジェクト」を実施しました。「七湯と路地裏めぐり」「南熱海の里庭体験」など、官民が協力し、市民を巻き込んだ体験プロジェクトであり、市民自身が熱海のすばらしさを再発見し、観光資源に磨きをかける貴重な機会となっています。

この二年間は本当に多くの方々を支えていただきました。熱海の大変な変革期というこの大切な時期に市長をやらせていただいていることに対して、その責任の大きさを益々感じております。これから初心を忘れることなく、一步一步着実に前に進んでまいりますので、市民の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

## 熱海に追い風!

熱海市長 齊藤 栄



「熱海がすごい人気なんですってね!」と、東京在住の友人達。最近のガソリンの値上げに伴い、安・近・短(安く、近くて、短期間)の観光地として、熱海がちょっとしたブームです。多くのテレビ番組で報道され、私自身も複数の取材を受けました。

今年は熱海に追い風が吹いているようです。この時ならぬ風をうまく活かし、来熟した観光客をリピーターにすることが重要です。また、この流れを秋以降にしっかりとつないでいかなければなりません。そんな中、9月から行われている新イベント『アタミフィッシングカーニバル』に注目しています。今、人気急上昇の海釣り公園を使って、「釣って、計って、食す!」のキャッチコピーの通り、釣った魚の総重量を競うと共に、調理してもらい味わうこともできるというものです。

12月には豪華客船「にっぽん丸」が熱海港を二度訪れます。乗船のお客様に、市内のまち歩きを楽しんでいただけるよう、10月から開催する「熱海まち歩きガイド養成講座」に参加される方たちのサポートも期待しています。また、来年の「梅まつり」の期間中に、全国の梅にゆかりのある首長が集う「梅サミット」も開催の予定です。これを機会に日本一早咲きの梅と桜(あたま桜)が同時に楽しめるまち歩きを全国にPRしていきます。これらの新たな取り組みを通して、今、熱海に吹いている追い風を、常に吹く強い風にしていきます。と思います。

## 新庁舎建設の延期について



熱海市長 齊藤 栄

さる7月29日に開催された行財政改革会議において、これまで進めてきた新庁舎建設事業を平成24年度以降に延期する考えを説明いたしました。これは行財政改革プラン見直し作業の結果から、予想以上に厳しい市の財政状況などを踏まえて判断させていただいたものです。

延期の一つ目の理由は社会保障費の増大です。特に後期高齢者医療制度の導入により、市の財政的負担は大幅に増加しました。この負担は今後とも増え続けることが見込まれますが、高齢者の多い熱海市においてははっきりと対応していかなければなりません。二つ目の理由は中学校の耐震化です。中国・四川大地震による大きな被害などを踏まえ、子供たちの安全を守るため、現在耐震性の劣る熱海中学校と小嵐中学校の耐震補強を優先すべきであると判断いたしました。

一方で、新庁舎の建設を延期しても、災害時の司令塔としての役割はしっかりと確保しなければなりません。このため、現在耐震性の劣る消防庁舎の耐震補強を行い、この課題に対応してまいります。

多数の方のご尽力をいただいて、新庁舎建設の検討を行ってきた中、延期の決断は非常に大きいものではありませんが、今回の新庁舎建設事業の延期は、限られた予算のなかでの最善の選択と考えております。熱海市の財政の健全化を着実に図った上で、新庁舎建設事業の再開を目指してまいりますので、ご理解をよろしくお願いいたします。

## 路地裏めぐり

熱海市長 齊藤 栄



6月21日に「七湯と路地裏めぐり」が行われました。NPOエイミック認定『温シエルジェ』のガイドで、熱海七湯をポイントに路地裏をめぐるまち歩きをするもので、歩きながら見つけた魅力あるスポットをカメラにおさめ、立ち寄り湯で入浴後に、交流会で写真を見ながら歓談するものです。「歩いて楽しい温泉保養地づくり」に向けて、観光戦略室が行った試みです。

市内外から定員をオーバーする多くの方が参加してくださいましたが、熱海が好きと言う気持ちは皆同じです。「昔の熱海の光景が残っていた」「裏木戸を開けた熱海の一面を見られた」などの感想が出て、交流会は湯のまち熱海に相応しい和気あいあいとしたものとなりました。

熱海には歴史や文化に基づく観光・地域資源が有り余るほどあります。新しい観光施設をつくるのではなく、もともと熱海が持っている資源を磨き、それを線でつないで行くことが「歩いて楽しいまち」をつくっていきます。また、意外と熱海出身の方が熱海の魅力に気づいていないこともあります。市民自身が熱海の魅力を再発見し、熱海に対して誇りを持つことも大切です。

「まち歩き」には全国に先例があります。特に有名なのは『別府八湯温泉泊覧会』（通称…『オンパク』）や『長崎さるく』です。魅力的な多数のプログラムを提供し、観光地として大きな評価を得ています。熱海にも熱海らしい、まち歩きプロジェクトをつくっていききたいと思います。



熱海市長 齊藤 栄

## GW中の大規模断水

GW（ゴールデンウィーク）中、約3日間にわたる市内の断水は、その影響が、約3千9百世帯に及び、過去に例のない大規模なものでした。原因は静岡県企業局柿田川支所の「可とう管」と呼ばれる送水管が漏水し、熱海への給水がストップしたことでした。市民そして観光客の皆様には多くのご迷惑とご不便をおかけしました。

その対応に当たっては、近隣の市町から多大な応援をいただきました。特に4台の10トン給水車は高齢者施設や団地などへの対応にフル回転で活躍しました。また、各町内会、自主防災会のご協力を得て、非常用飲料袋に給水したパックを公民館などで配布いただくとともに、要援護者の皆様にペットボトルを配ることができました。

市は庁内に対策本部を設置し、計13回の対策会議を開きその対応に当たりましたが、断水区域を少しでも少なくするため、水道温泉課の職員は徹夜で作業を行いました。自己水源を最大限に活用し、市内の管路網のバルブ操作により、断水の影響を約5千7百世帯回避することができました。

今回の断水事故から今後の課題も浮き彫りになりました。市民や事業者の皆様へ断水の情報が正確そして迅速に伝わりきれなかった部分があること、大規模断水時の対応マニュアルを作成する必要があること、そして熱海市の生命線である県営水道に対して、その維持管理体制の強化を求めることなどです。これらの課題にしっかりと取り組んでまいりたいと思います。

## 花博の検証作業について

熱海市長 齊藤 栄



平成16年3月18日から67日間にわたって開催された「熱海花の博覧会」(以下花博と略す)は、多額の赤字を残して閉幕し、今日でも賛否両論、多くの議論があります。市では住民訴訟に対する昨年の判決を受けて、第三者機関である「熱海花の博覧会検証委員会」を立ち上げ、客観的な立場から花博に対する総括作業を行いました。

検証委員会の報告書は、花博の問題点、収支決算等のデータを分かりやすく整理すると共に、功罪両面から花博を総括した内容となっています。

組織体制の不備と、予算や観客動員数に対する見通しの甘さなどが、厳しい結果を生み出す要因となったことを指摘すると共に、「市民やボランティア団体と市による「協働のまちづくり」が本格的に始まる契機となったことなどに触れています。

この花博に対する検証・総括作業の大切な点は、憶測や風評でなく客観的な資料などに基づいて評価を行ったという点と、その結果について、行政は反省すべきはしっかりと反省しなければならぬという点の二つです。検証結果については、貴重な教訓として熱海市役所の全職員が共有し、同じ轍を踏むことのないよう努めてまいります。

また、検証結果については、議会、市民の皆様に対して情報公開をしっかりと行います。報告書は、市役所(支所・出張所を含む)、図書館、及び市のホームページで閲覧できます。また、概要を広報あたま6月号に掲載する予定です。是非一度ご覧いただきたいと思えます。

## 新年度を迎えて

熱海市長 齊藤 栄



4月は新入学や就職など、新たな活動が始まる月ですが、熱海市役所でも新組織がスタートしました。

新組織は、市役所組織を簡素化（全体で7課20係の削減）するとともに、新施策を強力に進めていくことを目的に編成しました。例えば、熱海の産業振興により力を入れていくために、「観光文化部」を「観光経済部」にリニューアルしました。ここでは農漁業体験や地場産品の商品化など、観光と結び付けた形で農業や漁業の振興を図ってきます。また、熱海市役所として初めて国（経済産業省）から出向者を迎えて、施策実施のための強力な布陣を整えました。産業振興は、確たる成果をあげるためには、相応の時間を要すると思われませんが、雇用機会の創出につながる重要案件のため、必ずものにしたいたいと考えています。

また、「人づくり」にも力を入れていきます。昨今、「人づくり」の重要性が再認識されていますが、市役所も例外ではありません。職員の意識改革研修を実施するとともに、一人ひとりに「目的意識」と「主体性」を持つこと、「この仕事の目的は何か」「お客様は誰なのか」を常に考えて行動することを求めています。大きなテーマであり、じっくり腰を据えて取り組んでいきます。

春は変化の季節です。新しい熱海を創っていくための芽を一つひとつ育てていきたいと思えます。市民の皆様のご理解とご協力をどうぞよろしくお願いたします。

## 丹那トンネル

熱海市長 齊藤 栄



先日、熱海市立図書館で『闇を裂く道』（吉村昭著、文藝春秋）を借りました。昨年行われた第一回の『図書館フェア』で藤池教育長が推薦された本です。数多くの艱難<sup>かんなん</sup>辛苦<sup>しんく</sup>を乗り越えて開通にこぎ着けた丹那トンネル工事のことを書いた本であり、是非一度読んでみたいと思っていました。

第一回の『図書館フェア』では、藤池教育長、米山市議会議長と私の三人がそれぞれ推薦本を提示する機会をいただきました。その中で最も多い貸し出し数となったのが、『闇を裂く道』であり、丹那トンネルへの興味の高さが伺われます。

周知のように、熱海の発展は丹那トンネル開通を抜きには語れません。私は大学で土木工学を勉強したこともあり、丹那トンネルには強い興味を持っています。『続・熱海風土記』（山田兼次著、伊豆新聞社）の『丹那トンネル』の章を読んだ際にも大きな感銘を受けましたが、『闇を裂く道』では丹那トンネルの工事の詳細だけではなく、当時の日本の時代背景や、世評等についても丁寧に記述されており、これまで私の中でばらばらにあった熱海の事象が、色彩のある立体的な像となって結びつきました。梅園の『供養梅』や、丹那神社に祀られている『救命石』についても、一層の感慨を持つようになりました。

折しも、四月二日は丹那トンネル感謝祭、四月六日には丹那神社の例大祭が開催されます。熱海の歴史を知るひとつの契機として、丹那トンネルに興味を持っていただけたらと思います。

## 熱海梅園のリニューアル

熱海市長 齊藤 栄



熱海梅園は明治十九年に開設され、本年度開園百二十二年の歴史を持つ和風公園で、観光客や市民の皆様に親しまれてきました。しかし近年、樹木の老朽化や樹勢の衰えは憂慮されております。

ところが、梅園の梅の生育状況や昨今の熱海市の財政状況に心を痛めた熱海ゆかりの篤志家が現われ多大なご支援により、大がかりなりニューアルを行っております。第一期のリニューアル工事は、一月十四日に始まった『梅まつり』に合わせて、韓国庭園周辺の斜面に早咲きの梅三十一本と下木や地被類が植栽され、見違えるほど美しく整備されました。

『お宮の松』と並んで、観光客に広く認知されています熱海梅園へのご支援に対し衷心よりご厚情に感謝し、この熱海の宝を後世にわたって守っていくことが、我々熱海市民がご好意に報いる唯一の道ではないかと思っております。市民の皆様も是非一度、新しくなった梅園に足をお運び下さい。

また、『梅まつり』の期間中（三月九日まで）は整備したばかりの足湯も楽しむことができます。梅園の梅と同時に「あたま桜」も咲き始めました。今後は、「梅と桜が同時に楽しめる」という点を積極的にPRして、より多くの観光客の皆様を呼び込んでいきたいと考えております。

なお、今後、第二期のリニューアル工事も予定されております。